



上矢作小学校だより

大 船 山

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子

第 18 号
令和7年2月15日

物事を静止した状態で捉えてはいけない、でも…

校長 細江 幸次

世の中の移り変わりが早くなっているのか、それとも加齢とともに自分自身が保守的になり、頑なに「以前の通り」に固執しているのか、そんなことを最近よく考えるようになりました。

毎日、学校で行われている授業ひとつとってみても、この数年はタブレットが多く時間で活用されるようになり、大きく授業の形態が変化しました。授業中において、子どもたちの情報発信の手立ては、私が授業を行っていた頃はせいぜいホワイトボードに書く文字情報と簡易な図表程度でした。しかし、今はその場で撮った画像もすぐに共有でき、自分で手に入れた視覚情報や音声情報だけでなく、公に公開されているものも自在に活用することができます。動画は何度でも再生でき、それらには自分で補助線や矢印等のマーキングをいれるような加工も簡単にできてしまいます。日常生活に目を向けてみても、この数年で私が子どもの頃に夢の機器とされたテレビ電話も当たり前に使われ、民間でもロケットを打ち上げるようになってきました。もしかしたら、近い未来にタイムマシンやどこでもドアのような道具が誕生するのではないかという気さえしてきます。

私たちの生活の中で初めてテレビやコンピュータ、車や携帯電話が登場したときは、それなりの衝撃と従来の生活からの脱却を求められたと思います。しかし、決してそれでゴールではなく、より便利で、より多くの人々に利用できるものへ高めようとする飽くなき挑戦があり、より高い効率性や快適さを求める私たちの欲求があったからこそその現在なのです。そして、「物事を静止した状態でとらえない」その時々を生きる人々の対応力の高さも忘れてはならないことだと考えます。

しかし、どんなに科学や技術が進歩発展して私たちのくらしが豊かになったとしても、その一方でずっと変わらず営々と受け継がれてきた価値や考え方もあります。イメージしやすいもので表現するとしたら小中学校の道徳の時間で学ぶような内容（責任、正義、誠実、礼儀、公正・公平、生命尊重 等々）がそれにあたり、時代とともに変わりゆくものである「流行」に対して、これらはいつの時代においても変わらない「不易」と表現されるものです。この「不易」と「流行」は本来相容れないものであり、同列にとらえてしまうと困ることも多々出てくるのではないかと捉えています。例えば、近年、情報機器の発達によって個人の意見・考えが簡単に発信できるようになってきました。こればかりに傾倒してしまうと誹謗中傷が横行する世界が広がってしまうため、そこに歯止めをかけるのは「個の尊重」「思いやり」「自主・自律」といった自制する姿・視点がより一層強く求められるようになってくるという具合です。

先端の技術は個の要求に応えるレベルまで高まり、それ故に匿名性や秘匿性が高くなってきています。しかし、そうであっても自分以外の人に嫌な思いをさせたり、傷つけたりする理由にはなりません。「教育」とは「望ましい知識・技能・規範などの学習を促進する意図的な働きかけの諸活動(広辞苑)」と示されているように、学んだことを正しく理解し、有効に活用して自分も含めて周りのみんなが豊かになっていかなければならないはずです。「流行」を強く求めすぎて、どこかで「不易」の部分が蔑（ないがし）ろにされていないか、そんなことを様々な事象から感じています。



この中の「不易」と「流行」は？

トピック

■6年生 薬物乱用防止教室

1月15日(水)5時間目に薬物乱用防止教室を行いました。これは毎年6年生を対象に、学校薬剤師の川路先生にご来校いただき、実施しているものです。違法薬物だけではなく、私たちの身の回りに普通にある薬物について正しく理解することは健康な生活を送る上でとても大切なことです。特に成長期にある子どもたちにとって薬物の影響は大きなものがあるのでなおさらです。今回のこの教室が今後の安全で健康的な生活の一助となることを願っています。



薬物乱用はなぜダメなの？

- ＊人間が生きていく上で一番大切な脳を傷つけてしまう
- ＊脳の役割…息をしたり、考えたり、体の動きをコントロールする
- ＊脳が傷つくと、考えたり、体を動かすのがうまくできず、死んでしまうこともある
- ＊一度傷ついた脳は二度と元に戻らない
- ＊一度でも使うと、やめようと思ってやめられない

今の10代の薬物依存

- ＊過去1年間に市販薬の乱用経験がある高校生「60人に1人の割合」
- ＊表向きは「良い子」の女子が多い
- ＊都会と田舎の差がない、タイムラグがない
- ＊市販薬が手に入りやすくなった
- ＊ネット通販、ドラッグストア
- ＊遊びではなく、生きづらさをまぎらわせるために薬を使う

こころとからだを大切にしよう

- ＊悩みや困ったことがあったらひとりで解決しようとせず、まずだれかに相談しよう
- ＊ひとりでさみしいと思ったら、友達や先生に気持ちを話してみよう
- ＊心や体がへとへとになるまで頑張らない。疲れたら休もう
- ＊ゲームや推し活は時間を決めて楽しもう。睡眠は健康な心と体を育てるために重要！
- ＊命はもろくてはかない。大切にしよう

■児童会活動 赤い羽根募金

2学期末より児童会が中心となって集めてきた赤い羽根共同募金を、1月29日(水)に社会福祉協議会の皆さんにお渡しすることができました。これは毎年、本校児童会が福祉活動の一環として行っていることです。総額5,399円が集まりました。各家庭からの善意のご協力、ありがとうございました。



■漢字検定

1月31日(金)放課後に漢字検定を行いました。本校を会場にして行うのは今年度で3回目となります。34名(小学生:21名、中学生:6名、一般:4名、本校職員3名)が検定問題に取り組みました。これまでは級毎に実施教室を分けていましたが、今年度は全員がリニューアルされたメロディルームで行いました。

学校の日常は同年齢の活動が主ですが、通常のテストとは違う、異年齢混在のこのような場はこれまでにない新鮮な刺激になっていくと考えます。また、特に小学生は、年上の人たちの学び続ける姿から何か得るものがあるはずと確信しています。ましてや、自分の親と一緒に受けているとなるとやる気もが然と違ってくるはずです。主体的な学びの根源となる動機付けや関心・意欲を高める貴重な場として今後も継続していきたいと考えています。

上矢作っ子の活躍

■第53回東濃ジュニアスケート大会 小学校低学年女子500m 第3位 1年 鈴木美月

■三行詩コンクール(岐阜県表彰)優秀作品 4年 中根暖心